

令和5年度第1回社会教育委員の会議 会議要旨

日 時：令和5年6月28日（水）13：30～
場 所：生涯学習総合センター研修室5・6
出席者：委員10名、事務局5名

1. 開会

2. 教育長あいさつ

3. 委員紹介

令和5年6月22日付で高田正哉委員、尾形幸男委員が新たに委嘱されたため、委員間及び事務局で再度自己紹介を行った。

4. 副議長選出

令和5年3月31日付で副議長の久保美由紀委員が辞任したため、新たに副議長を選出し、長沼敬貴委員が選任された。

5. 議事

「人口減少社会における社会教育の役割について」

前回までの議論を踏まえ、人口減少による課題への対応案と今後の方向性についての事務局案に対し、各委員よりご意見をいただいた。

【委員からの主な意見】

1. 時代の変化に対応した社会教育の推進

- ・ デジタル化への対応とデジタルデバイドの解消は、具体的なゴール地点を明確にした方が良い。例えば、スマホ普及率100パーセントを目指すのか、それとも、オンライン決済などスマホやデジタルの機器を活用して生活ができるというレベルまで考えるのかで、かなり方向性が変わってくる。基本的には、高齢者がスマホやタブレットをある程度使えるようになるということがまず目標になってくると思う。
- ・ デジタル田園都市構想を踏まえると、デジタル機器を使った連絡網やコミュニティを作るというのはあると思う。また、コミュニティスクールで学校の中に集会所のようなものを作るのもあると思う。
- ・ 高齢者はスマホをどこまでクリアできれば、このデジタル社会についていけるのかということでは、電話は使えるようにするのとLINEを使えるようにするところまで至ると結構利益があると思う。デジタル機器の1番難しいのは、細かいところに手が行き届かないからなので、支援員のような人たちと連携することも必要だと思う。

- ・市はデジタル田園都市構想の指定を受けているが、社会教育の部分で何か実益を感じたり、良かったなと感じるような活用方法が見出だせばよい。

2. 社会教育の人材の育成と活用

- ・放課後子ども教室で安全管理員をお願いしているが、なかなか定員に満たない。また、学校のサポートティーチャーもなり手がいない。こういうところにどんどん地域の年配の方たちが関わってけると良い。
- ・例えば書道経験のある先生は結構いると思うが、市全体で見ると人が見えない。もう少し身近なところで、例えば区長さんは町内の人を1番知っているので紹介してもらうような方法もある。また、市政だよりで公募するような方法もあると思う。
- ・学校支援のサポートティーチャーは初歩的な内容なので、どなたでもお手伝いしていただければいいということでもなかなか集まらない。
- ・校外学習などで地域に出るときに、子供たちの面倒を見るというようなことをやっている人はかなり多い。情報を発信して、一歩学校に踏み込むとか社会教育に踏み込むきっかけを作ることが非常に大事だと思う。
- ・長野県の上田市では、学校の中に高齢者とか元先生が集まる場所を作ったという事例があり、この時間にこれをやるから手伝いに来てほしいと周知し、必要な時に来てもらうということをやっていた。現実的に高齢者がいる空間を学校の中に作るのは、かなり難しいと思うが、市の事情に合わせた形で何かできると思う。
- ・65歳で仕事を辞めて、それからの30年を、生きがいを持ち、ある程度の収入を得ながらどう生きていくかが重要である。
- ・ライフプランセミナーでは、年金や資産運用が主となるが、退職後どうやって生きていくかを前提として、それに見合ったお金や健康はどうするかという講座もある。それを例えば公民館で一般向けにもできないかなと思う。
- ・子ども会育成会連絡協議会では、子供の中からリーダーを育成し、そのリーダーがその下の子供を面倒を見て、またその下の子供に伝えていくということをしている。育ってきたリーダーは、将来、大学を卒業して、就職して他県に行った場合でも、最終的にまた会津に帰ってきてもらうことを目標として、子供たちと一緒に活動しているが、子供が少なくなってきた大変である。
- ・人材育成だとコーディネーター養成講座のようなものをやる方法がある。あとは大学の出張講座なども良いと思う。
- ・社会教育で様々な企画を実施したが、参加してくれれば良さをわかってもらえるが、紙のチラシでは人を集めるのに限界がある。地域学校協働本部のコーディネーターも人を見つけるのに苦労されていて、地域であちこちに声をかけていただいているが、一人では限界がある。最終的には色んな人との繋がりという部分が大事になってくる。
- ・各地区の町内会のほうから人材育成とか学習するような形あっても良いと思う。

3. 地域コミュニティの活性化

- ・地域学校協働本部では、学校とコーディネーターと公民館が繋がっているが、実際にやっている方たちが、こんなのもやりたいという考えがあったら、もっとやりやすいように、組織を少しずつ変えていくことも必要だと思う。
- ・若松三中学区の学校運営協議会には、地域学校協働本部のコーディネーター3人が、委員として入っているので、今、学校がどこに進もうとしてるとか、何を必要としているかというのはコーディネーターは把握している。また、謹教小は3月に年間行事ができるので、その段階でコーディネーターに1年間の活動をお願いしている。
- ・自分の町内会では、今年夏まつりを復活させることとなったが、子ども会に一つのブースを預けて好きにやってもらうようにした。子ども会は4町内会で1つの子ども会になってるので、町内会と町内会の繋がりができて、コミュニティの輪が広がることを期待している。
- ・自分の地区は子どもが少なく、子ども育成会に親が参加してもなかなか活動ができない状況なので、親でなくても誰でも参加できるという形もあってよいと思う。
- ・地域学校協働活動でも活躍できるように、リタイア後の組織に働きかけて、人材バンクのようなものができるようにすると良い。

4. 社会教育施設の機能強化

- ・会津短大も会津大学も地域連携の派遣講座あり、多様な内容のものがあるので、大学との連携も念頭に置くとよい。
- ・各公民館の講座は、参加者が高齢者に絞られてくるので、幅広い年齢層に対応した講座の内容を今後考えていく必要がある。子供たちも楽しく、親も楽しめる内容になるように講座を開催するのと良い。

5. その他

○次回のスケジュール

次回の会議は10月を予定

6. 閉会